

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (中学校 特別活動)



平成 24 年度から、中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 23 年 7 月に「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 中学校特別活動における目標、評価の観点とその趣旨について
- 3 中学校特別活動における学習評価の進め方
- 4 中学校特別活動における学習評価事例
- 5 中学校特別活動における学習評価の進め方 Q & A



◆ 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◆ 各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落とししていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◆ 新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 新学習指導要領における特別活動の評価の観点

特別活動における評価の観点は、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校で定めることとされています。その参考として、初等中等教育局長通知（H22.5.11）に3つの観点が例示されました。その3つの観点は、学校教育法における学力の3要素を反映させたものとなっています。

学力の3要素	特別活動の評価の観点(例示)
○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得	○ 集団活動や生活についての知識・理解
○ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	○ 集団や社会の一員としての思考・判断・実践
○ 学習意欲	○ 集団活動や生活への関心・意欲・態度

(2) 例示された評価の観点的考え方

参考のために例示された3つの評価の観点は、特別活動の特質を踏まえ、次のような考え方に立って設定してあります。

「集団活動や生活への関心・意欲・態度」
学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生き方の充実と向上に取り組もうとしているかを見取ります。
「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」
集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している状況を評価するものです。これまでの経験や知識等を活用して、集団や社会の一員として適切に考え、判断し、実践しているかを見取ります。
「集団活動や生活についての知識・理解」
集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて必要なことを理解しているかを見取ります。

中学校 特別活動における目標、評価の観点及びその趣旨

1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

→特別活動が、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、目標に「人間関係」が加えられました。

2 評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

※ 小・中学校の指導の一貫性に配慮して、観点及びその趣旨が例示されています。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

- 小・中学校の指導の一貫性に配慮して、観点及びその趣旨が例示されました。
- これまでの4観点から、3観点を例が示されました。
- 例示を基に、各学校で具体的に観点を設定しなければなりません。

各学校で評価の観点を定める際にはどんなところに気を付けるの？

- 特別活動全体に係る観点と趣旨を明確に示します。
- 例示された「集団活動や生活への関心・意欲・態度」「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」「集団活動や生活についての知識・理解」を参考に、3つ程度の観点を作成します。
- 各学校で、例示された評価の観点を参考にして、より具体的な観点を設定することも考えられます。各学校の生徒の実態や身に付けさせたい力を吟味して設定します。

【例示された評価の観点を参考にして、学校としての観点を設定した例】

観 点	集団や自他の生活の充実への 関心・意欲・ 態度	自己を生かして共同して 生活をつくる力	話し合い活動や生活についての 知識・理解・ 技能
趣 旨	学級や学校の集団、自分や他者の生活に関心をもち、積極的に集団や自他の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の他者と関わり、望ましい人間関係を築きながら、自己のよさを生かし、集団や社会と共同してよりよい生活を築こうとする。	よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の役割・進め方、自己の健全な生活の在り方などについて理解し、身に付けている。
学校として変更した点	<観点の一部を具体化> 「生活」を「自他の生活の充実」と具体的に示した。 <観点を要素を削除> 関心・意欲に絞って評価を行うこととした。	<観点の変更> 特別活動の目標から「自己を生かすこと」に焦点化した。	<観点の一部を具体化> 「話し合い活動の役割・進め方」と具体的に示した。 <観点を要素を追加> 知識・理解だけでなく、技能を身に付けることも求めた。

3 内容のまとめりとごとの評価に盛り込むべき事項

各学校において定めた評価の観点に沿って学級活動(1), (2), (3), 生徒会活動の各活動と学校行事の評価規準を作成します。ここでは、国立教育政策研究所において示されている【評価規準に盛り込むべき事項】の中から「学級活動」と「生徒会活動」について示します。

【学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団となして意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

【学級活動（２）「適応と成長及び健康安全」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常の生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。

【学級活動（３）「学業と進路」の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
人間としての生き方や学ぶこと、働くことなどに関心をもち、自己のよさを伸ばしながら、自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方などについて考え、判断し、実践している。	学ぶことと働くことの意義や、自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。

【生徒会活動の評価規準に盛り込むべき事項】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学校生活の充実と向上に関わる諸問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に生徒会の活動に取り組もうとしている。	生徒会の一員としての自覚と役割意識をもち、全校的な視野に立って諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践している。	生徒会活動の意義や組織、諸活動への参画の仕方などについて理解している。

中学校特別活動における学習評価の進め方

どんなところに気を付けて評価をするの？

- (1) 評価は、学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの内容において行います。
- (2) 特別活動においては、生徒に自信をもたせたり意欲を高めたりするために、生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要です。したがって「十分満足できる状況」は教科における評価と違って幅が広く、「十分満足できる」「十分満足できていない」の2段階で評価をします。
- (3) 活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めます。生徒のよい点や進歩の状況を明確にするとともに、指導の改善に生かすことが大切です。
- (4) 学級活動では、1単位時間に、設定した観点のすべてについて評価をする必要はありません。事前や事後の活動や指導を含めて評価するようにします。
- (5) 特別活動は、学級活動のように主として学級担任が指導する内容もありますが、生徒会活動や学校行事のように学級担任ではない教師が指導に当たる場合があります。直接生徒に関わった教師が評価をすることで多面的な評価が可能となります。そこで、次のア～エのことに配慮し、多くの教師による評価の結果を反映させるなど、学校としての指導体制を確立することが大切です。

ア 個々の生徒の活動状況について、担当する教師との間で情報交換を密にすること。

イ 評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に収集され、活用されるようにすること。

ウ 必要に応じて評価した結果を全教師が共有し、指導に生かせるようにすること。

エ 年間を通してより多くの教師の目で「個人の変容」や「集団の変容」について評価すること。

- (6) 指導要録や家庭への通知表には、評価の観点に照らして、十分に満足できる活動の状況にある場合に○を付けます。

各観点の評価方法は？

【集団活動や生活への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生き方の充実と向上に取り組もうとする状況の評価するものです。集団そのものに十分関心があるか、自己の生活に十分関心があるかの両面について評価をする必要があります。

活動のねらいを踏まえて、活動内容に対しての関心・意欲・態度を評価します。具体的な生徒の姿を決めて教師の観察によって見取る方法や、質問紙を利用して学級全体の傾向を評価する方法等があります。

発言の内容、学級会ノートの記述、ふり返りカードの記述、チェックカード等で見取ることができます。

【集団や社会の一員としての思考・判断・実践】は、どうやって評価するの？

集団や社会の一員として役割や責任を果たすことや、自己を生かすことを考え、判断し、実践する生徒の姿を評価するものです。特別活動では、この「考える」「判断する」「言動に表す」が一体的に行われる場合が多く見られます。

行動の観察、発言の内容、学級会ノートの記述、ふり返りカードの記述、チェックカード等で見取ることができます。

【集団活動や生活についての知識・理解】は、どうやって評価するの？

各活動・学校行事において、集団活動の意義や話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方等を理解しているかということの評価するものです。学級活動では、話し合いの仕方や健全な生活に関する知識について、学期末に質問紙などによって評価するなど、比較的、長期的なスパンで見取ることも考えられます。

行動の観察、チェックカード等で見取ることができます。



中学校特別活動における学習評価事例 1

■ 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の事例

1学期が終わる頃には、緊張感をもって学校生活を送っていた1年生の学級でも約束事が守られなくなることがあります。この事例では、帰りの会に実施した生活アンケートの結果から、学級のよいところとして、みんなが明るく元気、宿題忘れが減ってきたなどが挙げられた一方で、時間内に給食を食べ終えることができずに、給食係が困っていることが課題として、多くの意見がよせられました。そこで、チャイムと同時に給食を食べ終えるようにするにはどうすればよいか、学級会活動委員会を中心に話し合い活動を行った実践について紹介します。

1 題材 学級の集団生活を見直そう

2 題材について(略)

3 学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

4 指導の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
7月〇日(〇)	・学級生活の実態を把握するためのアンケート調査を行う。	・正確な調査を実施できるよう、必要に応じて補足説明を行う。	【関心・意欲・態度】 ・学級生活の実態に対して改善の必要性を感じている。[アンケート]
7月〇日(〇)	◇学級活動委員会 ・アンケートの集計結果を基に課題を分析し、議題を決定する。	・生徒と共に本時の流れなどを検討し、活動の見通しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう自分から準備を進めようとしている。[観察]

	「給食チャイムと同時に給食を食べ終え、合掌ができるようにしよう！」		
	・提案理由を検討するとともに、話合いの柱を設定し、本時の活動計画を作成する。		
7月〇日(〇)	・議題に対する自分の意見を、学級会ノートに記入する。	・自分や学級の実態、解決策について考えさせ、学級会ノートに記入させる。	【関心・意欲・態度】 ・議題に関心をもち、自分の意見をまとめようとしている。〔学級会ノート〕→資料①の※1を参照

(2) 本時の指導と生徒の活動

- ① 本時の活動テーマ「給食チャイムと同時に給食を食べ終え、合掌ができるようにしよう！」
- ② 生徒の活動計画（略）
- ③ 本時のねらい

自分たちの学級の給食時間の課題解決に向け、互いの考えを生かし合いながら話合い活動を深めることを通して、学級の集団生活の向上に向けて活動意欲を高める。

④ 教師の指導計画 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の確認 「給食チャイムと同時に給食を食べ終え、合掌ができるようにしよう！」 4 提案理由の説明	学級活動(1)では、生徒によって設定された議題を記入します。 ・学級活動委員会での検討の経緯を説明するよう助言する。 ・提案理由に関する補足をしながら、学級全体で解決すべき課題であることを確認する。	評価規準を基に、学級の実態に応じて「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な生徒の姿をいくつか想定しておくようにします。
活動の展開40分	5 話合い (1) 自分たちの学級の給食時間の課題は何だろう。 (2) チャイムと同時に合掌ができるようにするために、どうすればよいのだろう。 6 話合いのまとめと決定事項の確認	・事前に給食の時間における学級の課題をまとめさせておく。 ・学級の実態を踏まえて、具体的な意見を考えるよう助言する。	【思考・判断・実践】 ・学級の実態を自分の言葉で表現しながら、よりよい給食の時間にするための具体策を考え、理由を示して意見を述べている。 〔観察〕〔学級会ノート〕 →資料①の※2を参照

活動のまとめ 5分	7 話合いの振り返り	・ 本時の話合い活動を通して気付いたことや考えたことなどを、学級会ノートに記入するよう助言する。 ・ 話合いの流れを方向付けた発言や学級活動委員の活動などを称賛するとともに、実践に向けての意欲を高める。	
	8 感想発表		
	9 先生の話		
	10 閉会のことば		

(3) 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
7月〇日(〇) ～〇日(〇)	・ 話合い活動における決定事項に基づいて活動する。	・ 話合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見届け、必要に応じて助言する。	【思考・判断・実践】 ・ 集団生活の向上に向け、互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。[観察]
7月〇日(〇)	・ 一連の活動を通して気付いたことや学んだことを振り返りカードにまとめるとともに、今後の学校生活の在り方を考える。	・ 生徒のがんばりについて、具体例を示して称賛する。 ・ 成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	【知識・理解】 ・ 集団生活の向上に向けて学級で取り組むことの意義について理解している。[振り返りカード]

学級活動(1)の評価方法は？

(1) 事前活動における評価方法の例

事前活動として行ったアンケート調査の回答内容や、「学級会ノート」〈資料①〉に記載された議題に対する生徒の考えや意見(※1)を、教師の評価の参考にすることが考えられます。また、学級活動委員会の生徒については、学級活動委員会での話合いの様子や活動状況等を観察し、よい点を見つけ積極的に評価するとともに、本時の教師の話の中や朝の会、帰りの会などで取り上げ、称賛することにより生徒の活動意欲をさらに高めるよう配慮することが大切です。

(2) 本時や事後の活動における評価方法の例

本時の活動の評価では、よりよい方法等について友人の意見も尊重しながら考え、判断し、理由を示して意見を発表しているかなどを観察で評価することが考えられます。また、学級会ノートに話合い活動を振り返らせたり(※2)、実践に向けての決意などをまとめさせたり(※3)して評価することが考えられます。

事後の活動の評価では、本時の話合いで決定したことについて、互いに信頼し合いながら自分の役割に責任をもち、実践しているかといった点から観察により評価することが考えられます。また、活動の意義についての理解の状況(※4)については、「振り返りカード」〈資料②〉の記載内容から評価することが考えられます。

<資料① 学級会ノート>

第(○)回 学級会ノート 1年 ○組 氏名(○○ ○○)					
		月	日	曜日	校時
題 材	給食チャイムと同時に給食を食べ終え、合掌ができるようにしましょう！				
提案理由	帰りの会に実施したアンケートでは、学級のよいところとして、みんなが明るく元気、宿題忘れが減ってきたなどが挙がりました。一方課題として、なかなか給食の時間が守れないが最も多く意見としてよせられました。チャイムと同時に合掌ができるようにするにはどうすればよいかがみなさんに考えてもらいたいと思い話し合う題材に決めました。				
話し合いのめあて	理由を示して、意見を発表しよう。				
司会団	司会() 進行() 黒板() ノート()				
話し合いの順序					時間
① 始めの言葉 ④ 提案理由の説明 ② 司会団の紹介 ⑤ 話し合い ③ 題材の確認					5分
柱1	1ー〇の給食時間の課題は何だろう。			※1	
自分やクラスの様子 自分は配膳のときにきちんと席について、協力していると思う。 配膳のときに席を離れている人がいてグループにするのが遅いのが原因ではないか。					12分
柱2	チャイムと同時に合掌ができるようにするために、どうすればよいのだろう？				
〇自分もトイレに行き準備が遅れることがあったので速いしたいと思います。					18分
決まったこと 〇給食係と一緒にみんなで協力して、配膳や机の配置をしよう。 〇気が付いていない人には声を掛け合おう。					
⑦ 話し合いのまとめと決定事項の確認 ⑩ 閉会のことば ⑧ 感想発表 ⑨ 先生の話					5分
話し合いを振り返って 今日の話し合いの自己評価(◎…よくできた ○…できた △…あまりできなかった) ・真実に話し合いに参加することができた。 ◎ ・司会の進行に協力して、自分の意見を発表することができた。 ○ ・他の意見を理解して、そのよさを生かすような意見をだすことができた。 △					
(実践に向けての決意) 自分では給食時間に協力していたつもりだったけど、できていない人に声を掛けたことはなかった。ので、クラスで決まったように自分から声を掛けて、チャイムと同時に合掌できるようにしたいです。					※3

柱1の自分や学級の実態、柱2の解決策について考え、理由と併せて示すことができている、【関心・意欲・態度】の評価の観点に関して「十分満足できる活動の状況」とであると考えられます。

生徒の自己評価を、教師の評価の参考にすることが考えられます。また、生徒の自己評価の力を高めるために、話し合い活動を継続し、学期末等にそれまでに記入した学級会ノートを振り返る場を設けるとよいでしょう。

学級で決まったことを踏まえ、自己の役割を自覚し、これからすべきことについて適切な判断をしている様子がうかがえます。【思考・判断・実践】の評価の参考にすることが考えられます。

<資料② 振り返りカード>

振り返りカード 1年○組 氏名(○○ ○○)	
実践期間中の自分やみんなの給食時間の様子はどうか。	みんなで課題を話し合い、目標をきめて実践することにはどんなよさがありましたか。
最初はなかなか自分から声を掛けたりできませんでした。よくみんなに声を掛けてくれていた○○さんに「一緒にしよう」と言われ、自分も周囲に呼びかけられるようになってきました。実践して1週間目にきちんと時間内に合掌することができました。クラスの雰囲気も落ち着いてきたような気がします。	話し合いの中で何度も意見を言っていた○○さんは、実践のときにも自分から積極的に声をかけていたのですごくいいとおもいました。自分たちで話し合って決めるので、目標を達成しようという意欲がでてくると思います。これからも給食の時間を守れるように協力していきたいと思います。
	※4

「これからも給食の時間を守れるように協力していきたい」といった記述から、集団活動の意義を体験を通して理解した様子がうかがえます。【知識・理解】の観点に関する評価の参考にすることが考えられます。



中学校特別活動における学習評価事例 2

■ 学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」の事例

この事例では、生徒が自分に合った適切な実践課題について考え、自己決定し、その決定に従って適切に判断し、真剣に実践することができるようにすることを重視して授業を展開し、【集団や社会の一員としての思考・判断・実践】に重点化して評価した実践を紹介します。

1 題材 みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考えよう。

2 題材について（略）

3 学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常生活を送ろうとしている。	日常生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。

4 本題材のねらい

みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考え、友だちのよさに目を向けようという意欲をもち、実践しようとする。

5 指導の過程

（１）事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
9月〇日（〇）	・コミュニケーションに関するアンケートを行う。	・自分や友人、教師とのやりとりの実態について振り返りながら、アンケートに回答させる。	【思考・判断・実践】 ・友人のよさを見つけ、よさ発見カードに進んで記入しようとする。〔観察〕〔よさ発見カード〕
9月〇日（〇） ～〇日（〇）	・学級の友人のよさを見つけ、発見カードに記入する。	・よさ発見カードの使い方を説明し、友人のよさに目を向けさせる。 ・帰りの会等でよい気付きを積極的に取り上げ、活動への意欲を高める。	

（２）本時の指導と生徒の活動

① 本時の活動のテーマ

「互いによさに気付き、どうすれば、みんなが気持ちよく生活できるかを考えよう」

② 本時のねらい

友人のよさを見つける活動を振り返りながら、自他の個性に気付くことの大切さを理解させるとともに、学級の一員として自他の個性を尊重して行動しようとする態度を育てる。

③ 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	資料等	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	1 コミュニケーションに関するアンケートについての結果を聞く。	・アンケート結果について自分と比べながら聞くように促す。	学級活動ノート	【思考・判断・実践】 ・みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考え、友達の考えを参考にしながら具体的なめあてを決めて進んで実践しようとする。 [観察][よさ発見カード]
活動の展開 35分	2 問題解決に向けて話し合う。	・グループで互いの意見を出し合わせる。	学級活動ノート	
	3 友人のよさを見つけたとき、見つけてもらったときの気持ちを発表する。	・積極的に自分の気持ちや考えを発表させるとともに、友人の意見を共感しながら聞くよう促す。	よさ発見カード	
	4 どうすれば、みんなが気持ちよく生活できるかを考え、発表する。	・楽しい学校生活を送るために互いに認め合うことの大切さを理解させる。	学級活動ノート	
活動のまとめ 10分	5 自分のめあてを決め、発表する。	・本時の活動を通して気付いたことや考えたことなどを「振り返りカード」に記入させる。	振り返りカード	

(3) 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月〇日(〇) ～〇日(〇)	・友人のよさを見つける活動は継続し、自分が決めためあてを実践する。	・引き続き、帰りの会等を通して、よい気付きを積極的に取り上げたり、掲示するなどして、生徒が見ることができるよう工夫したりして、活動への意欲を高める。	【思考・判断・実践】 ・友達のよさを見つける活動を継続しながら、自分が決めためあてを進んで実践している。[観察][振り返りカード]

学級活動(2)、(3)の評価方法は？

学級活動「(2)適応と成長及び健康安全」及び「(3)学業と進路」では、主に個人の問題について、学級での活動を通して自分に合った解決方法等を考え、実践していくという活動の流れとなります。学級活動(2)及び(3)の内容項目は、学級活動(1)と比べ多岐にわたっているほか、活動の形態や方法も話し合いやパネルディスカッション、ロールプレイングなど様々なものが考えられます。題材にあった指導と評価の計画を作成し、生徒一人一人のよさや可能性を積極的に評価できるようにしておくことが大切です。

(1) 評価の観点の重点化の例

学級活動(2)においては、題材によって、事前、本時、事後の活動過程を通して、中心的に見取る評価の観点を重点化することが考えられます。例えば「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導で、「学校内外における安全な生活」を取り扱う場合は危険を予測することについての【関心・意欲・態度】に重点を置いたり、「飲酒、喫煙、薬物の害」などの予防的、発展的な内容については【知識・理解】に重点を置いたりすることが考えられます。

(2) 学級活動(2)における評価方法の例

本時の評価では生徒の話合いや発表の様子から積極的に自分の気持ちや考えを発表しているか、友人の意見を共感しながら聞いているかを観察したり、「よさ発見カード」<資料③>の記載内容を参考にしたりして評価することが考えられます。

事後の評価に当たっては、本時の学習を通して、自分で決めためあての実践の状況について、実践活動後の振り返りカード<資料④>などを活用して、指導と評価の参考にすることができます。

<資料③ よさ発見カード>

よさ発見カード		〇月〇日(〇)～〇月〇日(〇)	〇年〇組〇号	氏名(〇〇 〇〇)
友人名	〇〇さん	〇〇さん		
いつ、どんな場面で	掃除の時間にゴミ箱がひっくり返ったとき。 学級全体の活動として、よさを見つけるたびに、どんな場面だったのかを記録させます。帰りの会等で積極的に評価し、活動意欲を高めます。			
どんなよさに気づきましたか。	自分からほうきを取り出してすぐに片付けようとしてくれました。			
<友人のよさを見つけたときの気持ち>		<友人がみつけてくれたよさを讀んだ気持ち>		
普段あまり話さない友だちの行動もよく見ているとその人らしさがあってよさに気付くことができました。そのことを相手に伝えると『ありがとう』と言ってくれたのでなんだか以前より親しくなった気持ちになりました。		たくさんの友だちが自分のよさに気づいてくれてとてもうれしくおもしろい。なんだか温かい気持ちになりました。みんなが見つけてくれたよさをもっと伸ばしていきたいとおもいます。		
互いに気持ちよく生活するために<自分のめあて>		担任より		
1日1回は一緒に活動する友だちのよさをみつければ相手に伝える。		【思考・判断・実践】 自分に合った具体的なめあてになっているかを見取ります。		

本時で学習した内容についてどう考え判断しているのかを見取ります。この生徒の場合、「暖かい気持ちになった」と記述していることから、みんなが気持ちよく生活できることの大切さを考えることができていると考えられます。【思考・判断・実践】の評価は「十分満足できる活動の状況」であると考えられます。

<資料④> 振り返りカード

振り返りカード						〇年〇組〇号	氏名(〇〇 〇〇)
自分のめあて			自分のめあて			<活動を振り返って>	
1日1回は一緒に活動する友だちのよさをみつければ相手に伝える。			一人一人が自分の決めためあてに取り組めば楽しい雰囲気になると感じました。これから友だちのよさに目を向けたいと思います。				
自分のめあてを実践できましたか。 (◎よくできた ○できた △もう少し)			自分のめあてを実践できましたか。 (◎よくできた ○できた △もう少し)			<担任より>	
月日	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇くんへの取り組みに感謝している友だちがいるようです。ぜひ継続して続けてくださいね。	
自己評価	○	◎	◎	◎	◎		

実践に対する生徒の自己評価や活動全体の振り返りの記述、教師の観察などから自分に合った具体的なめあてを実践できていると考えられます。【思考・判断・実践】の評価は「十分満足できる活動の状況」であると考えられます。

実践に対する生徒の自己評価がよくない場合には、めあてやめあてに向けての取り組み方について、適切な指導を行います。

中学校特別活動における学習評価の進め方Q & A

Q 生徒会活動の評価はどのように行えばよいですか。

A 生徒会活動においては、一人一人のよさや可能性を積極的に評価できるように、「目指す生徒の姿」を明確にして、全ての教師が共通理解をもって指導と評価に当たることが大切です。

生徒会活動では、教科のように1時間ごとに評価規準を作成して指導に当たすることは現実的ではないので、例えば、学期ごとのまとまりで作成したり、「地域清掃活動」などの重点的な活動について評価規準を作成したりするとよいでしょう。

生徒会活動「地域清掃活動」の評価規準例

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
地域清掃活動等の社会参加	地域清掃活動等の参加について、自主的に取り組もうとしている。	地域社会の一員であるという自覚をもち、地域清掃活動の意義について考え、判断し、実践している。	地域清掃活動を通して地域の人々との交流し、社会への参画の仕方について理解している。

Q 学校行事の評価はどのように行えばよいですか。

A 学校行事においては、「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「旅行・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」の5つの種類ごとに評価規準を設定して評価します。学校行事では、生徒の活動が学級や学年の枠を超えて行われるために、全ての生徒の活動を把握することは困難であるため、学級担任以外の教師も評価する必要があります。特別活動の評価資料集約用シート（資料①）は随時記入していく例を提示している。）を準備し、学校の実態に合わせ、生徒のよさや可能性、興味・関心、活動の様子などをその都度記録できるようにします。

また、言語活動の充実を図る観点から、学校行事を通して気付いたことなどを振り返り、まとめるなどの活動が充実できるように、学校行事カードなどを作成し、教師の評価の参考にすることが考えられます。生徒の感想文などがある場合は、それらを評価の参考とすることも考えられます。

資料① 評価資料集約シート>

平成〇〇年度 評価資料集約シート 〇年〇組〇号 氏名 (〇〇 〇〇)		担当	学級活動	生徒会活動	学校行事
月日	生徒の活動の様子				
〇/〇	・学級会では黒板書記として、発表された意見を分かりやすく、きちんと板書した。	担任 〇〇	○		
〇/〇	・清掃委員会の実践活動で掃除用具の点検を行い、学級の掃除区域の掃除用具について修理が必要なものを調べた。	担任 〇〇		○	
〇/〇	・体育大会では用具係となり、他学年の競技の用具を準備する役割をきちんと果たした。	担当 〇〇			○

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校）などを参考に、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>